

日本画家

六人部 暉峰の世界

竹内栖鳳門の知られざる俊英 初の回顧展



六人部暉峰「白川殿攻落」(保善院蔵)

令和3年(2021)11月6日(土)～12月5日(日)

向日市文化資料館

開館時間:午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) 入館無料

期間中の休館日:毎週月曜日、12月1日(水)

主催:向日市 / 後援:歴史街道推進協議会 / 芸術文化振興基金助成事業



芸術文化振興基金

日本画家・六人部暉峰の世界 令和3年(2021)11月6日(土)～12月5日(日)



六人部暉峰「山家人物図」
(実践女子大学香雪記念資料館蔵)

六人部暉峰は、本名を六人部貞栄^{さだえ}といい、明治12年(1879)、京都府乙訓郡屈指^{おとくに}の古社・向日神社^{むこう}の神官を代々務めてきた六人部家に生まれました。10代前半で近代日本画の巨匠・竹内栖鳳^{たけうち}に入門して日本画家となった暉峰は、明治20年代後半から30年代半ば頃にかけて諸団体の展覧会に活発に出展して入賞を重ね、皇室の御用品にも度々選定されたほか、多くの刊行物にも作品が掲載されるなど、着実に実績を積んでいきますが、展覧会への出展がみられる期間は10年にも満たず、やがて諸記録から姿を消し、忘れ去られていきました。

この特別展では、これまでほとんど知られていなかった六人部暉峰の画業と生涯を、残された作品や関係資料によって紹介します。



六人部暉峰「桜」
(個人蔵)



六人部暉峰「雪中双雀」
(『名家花鳥画譜』より)



六人部暉峰「うさぎ」(個人蔵)

■記念シンポジウム

「六人部暉峰と明治期京都画壇」

11月21日(日) 午後2時～4時 向日市文化資料館 2階研修室

基調報告:里見徳太郎(向日市文化資料館)

パネリスト:田島達也氏(京都市立芸術大学 教授)

中野慎之氏(文化庁文化財第一課 文化財調査官〈絵画部門〉)

コーディネーター:高木博志氏(京都大学人文科学研究所 教授)

定員:40名

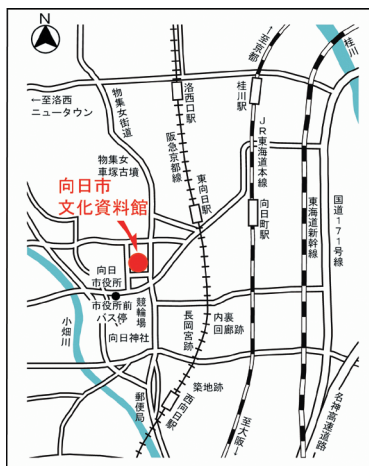
参加費:無料

◆申込み◆10月23日(土)から直接または電話で向日市文化資料館(電話075-931-1182、開館日の午前10時～午後6時)へ。定員に達し次第締め切ります。

※手話通訳をご希望の方は、11月7日(日)までにお申し込みください。



六人部暉峰
「富士越龍図」(個人蔵)



六人部暉峰「潮来春色」(個人蔵)



六人部暉峰「海幸」(個人蔵)



竹内栖鳳「宝船図」
六人部暉峰奉納 (向日神社蔵)

向日市文化資料館 〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40-1
電話 075-931-1182 ファクス 075-931-1121

<http://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/bunka/> 阪急東向日駅から徒歩8分、JR向日町駅から徒歩15分